

グローバル教育・実践教育に関する調査報告

—MIT および ASEE CIEC 会議からの動向—

2011 年 2 月 14 日

工学教育推進機構
政策調整部門

実践型研究リーダー養成事業
「イノベーションリーダー養成演習」

目次

はじめに	3
1. MITにおける(学生・教員の)国際化活動	4
1.1 動向概要	4
1.2 MITの国際化活動の概要	5
(1) ガイドラインと実施提案の概要 — 報告書【参考資料 1.1】、【参考資料 1.2】	5
(2) MIT Global Council 委員会の提案事項 — 報告書【参考資料 1.2】	6
(3) 総合 Web サイト global MIT からの情報 http://global.mit.edu/	8
(4) IAP(International Advisory Board)が【参考資料 1.1】報告書の中で引用して いるグローバル支援活動	12
1.3 インターンシップ関係	13
(1) 国際スタディセンター(Center for International Studies: CIS)	13
(2) MISTI—国際インターンシップ http://web.mit.edu/misti/	15
(3) MIT 訪問による情報	17
2. ASEE CIEC からの情報	20
2.1 American Society of Engineering Education (ASEE) について	20
2.2 CIEC(The Conference for Industry and Education Collaboration)概要	21
2.3 セッションからの情報	22
(1) セッション構成と内容の分類	22
(2) 全体のまとめ	25
(3) 開会セッション	26
(4) 産学協働プログラム(Co-op)関係	28
(5) インターンシップと実践教育関係の参考情報	30
(6) 工学技術 (Engineering Technology: ET) 分野	30
(7) グローバル教育関係	31
(8) その他のセッション	32
おわりに	32
付録1 出張関連情報	34
付録2: MIT 組織情報	35

はじめに

グローバル・国際教育(注)、実践教育、特にインターンシップ関係の最新動向について調査を行った。今回は北米の状況として、MIT における最近のグローバル教育強化とインターンシップ教育、および全米工学教育協会 (ASEE: The American Society of Engineering Education) の産学協同に関する年次大会 (CIEC: The Conference for Industry and Education Collaboration) の動向を、Web および出張による訪問により調査した。訪問先情報は、各セクション、及び付録1に示す。

注：本調査では、参考にした Web 情報、文書類の原文にある「global」と「international」を区別し原則として、各々「グローバル」、「国際」と表現してある。一般に、前者には国の概念を超えた総合的な活動、後者は国対国および留学生関連事項の意味合いがある。

MIT では、グローバル化・国際化(注)活動がここ数年で活発化し、トップダウンの方向性が提示され、かつボトムアップ活動の活発化と支援強化がされてきている。このような中で MIT の国際インターンシップは MISTI (The MIT International Science and Technology Initiatives) という全学組織が核となり、学部を中心に 30 年の歴史を持ち「国際体験は MIT 教育の一部」という基本思想に基づき、言語と文化について 2 年間の徹底した準備をさせた上で世界 12 国・地域に毎年 500 名レベルの学生を最低 3 か月派遣している。

その基礎は、相手国の文化・言語を詳細に会得している「国別の専任コーディネータ」の存在である。これらのことは、東大のグローバル化・国際化においても大変参考になる。

即ち、以下が基本事項である。

- ・ トップダウンの方向提案の実装とボトムアップ活動の支援強化、
- ・ 「国際体験は教育の一部」という基本思想の下での国際インターンシップ、
- ・ そのための専任のコーディネータ雇用と支援体制の充実

さらに、訪問先の国際関連教授、インターンシップ担当の全学組織 MISTI の副部長から、国際インターンシップに関して MIT からの派遣について東大との協力に関する示唆を受けた。モデルケースとして検討してみる価値があると思う。

ASEE は、日本のカウンターパートである日本工学教育協会(日工教)と比べて遥かに多い会員数(4 倍)を擁し、初等・中等教育との接続から高等教育、生涯教育、企業教育までを対象として活動分野も遥かに多く(40 活動部門)、かつトップ大学から小さな教育機関までが広く参加し活動していることが大きな特徴である。

今回の年次大会 CIEC は、産業界・政府との協働が主要なテーマである 4 部門が主催であるため、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育、学部教育・職業教育の産学官協同プログラムと協働教育 (co-op; cooperative education)、工学技術 (ET; engineering technology) 教育が主要なテーマであった。

各セッションにおける討論は大変活発であるが、内容にはそれほど意外性はなく日本でも認識されているような当然の議論が多いと感じたが、産業界との協力については、細かい課題はあるものの日本に比べて、co-op、STEM、ET それぞれにかなりかみ合っていることが理解できた。

グローバル教育・実践教育調査

MIT および ASEE CIEC 会議調査

・期間: 1月29日(土)–2月6日(日)

・調査先:

(1)MIT: 1月30–31日

- ・宮川繁教授、Department Head, Department of Linguistics & Philosophy
- ・Patricia E. Gercik, Associate Director of MISTI and Managing Director of the MIT Japan Program
- ・Michelle Kern, MISTI Director of Intern Placement

(2)全米工学教育協会 (ASEE: the American Society of Engineering Education)

- ・CIEC (the Conference for Industry and Education Collaboration) 第38回大会
2月2日--4日 San Antonio, TX, USA

・目的: 高等教育におけるグローバル・国際教育、インターンシップなどの実践教育についての最新の動向調査

- ・MITにおける最近のグローバル教育強化と大学院教育・インターンシップ教育の動向、
- ・全米工学教育協会(ASEE:)の産学協同に関する年次大会 CIEC の動向。

以上